

第1回 スポーツ推進審議会（会議録）

- 日時 令和3年7月28日（水）午後2時～3時30分
- 場所 山鹿市役所3階301会議室
- 出席者 中川委員（学識経験者）、島田委員（市体育協会長）、栗川委員（学識経験者）、松永委員（学識経験者）、中満委員（学識経験者）、中原委員（スポ少代表）戸澤委員（総合スポーツクラブ）、勝田委員（オムロンGM）、吉野委員（小体連）、松岡委員（山鹿観光協会）、高田委員（山鹿市商工会）竹下委員（体育施設指定管理者）、木下委員（公民館指導員）事務局 堀田教育長、渡邊教育部長、栗原社会体育課長、古川課長補佐 山部管理係長、月足主任主事、元松主事

●議事録

進行 栗原課長

1. 開会

2. 委嘱状交付

委員を代表して、中川委員へ堀田教育長より交付。

3. 教育長あいさつ

ただいま皆様を代表して中川委員へ委嘱状をお渡しました。そのほかの皆様方にはスポーツ推進審議会の委員をお願いしましたところ快く引き受けていただきありがとうございます。心より御礼申し上げます。コロナ禍の中で大変心配しておりましたが東京オリンピックも開会されました。当初は開催にあたり様々な意見がありましたが、連日連夜選手団の大活躍で今は本当に国民に感動と勇気を与えています。スポーツの持つ力というのはすごいなと改めて思っているところでございます。

本年度からご存知のように早田市政に変わりました。早田市長の公約の中にスポーツ・文化イベントを積極的に誘致し山鹿市を活気づかせたい、経済の活性化を図りたいという公約があります。私たちはこの公約に基づいてぜひ市長の思いを実現させなければいけません。そのような意味で、この審議会において、山鹿市スポーツ推進計画の策定、今後の本市におけるスポーツ推進に関する重要事項等について調査および審議をしていただきます。どうぞそれぞれの立場で委員の皆さま方にはいろいろな考えがあらわれると思いますので忌憚のない意見をこの会でどんどん出していただければありがたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

【進行】会長・副会長の選任の前に、初めての会議でもありますので自己紹介をお願いしたいと存じます。（委員一人ずつ自己紹介）

4. 会長・副会長選任

【栗原課長】山鹿市教育委員会付属機関に関する規則第4条の規定により、会長および副会長を委員の互選により定めることとなっております。会長は会を総理し審議会を代表します。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは代理することになります。互選により定めることとなっておりますがいかがでしょうか。

【中満委員】只今自己紹介を受けましたが、初めてでありますので、適任がわかりません。事務局の素案ありましたらお願いします。

【栗原課長】事務局案ということですので、事務局としましては、会長に、スポーツ推進計画の策定に多く携わり、見識が豊富な熊本大学教授中川保敬様。副会長には、山鹿市体育協会長として、本市のスポーツ振興にご尽力いただいております、島田直孝様をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】異議なし（全員一致）

【栗原課長】ご異議がありませんでしたので、委員の互選により、会長に中川保敬様、副会長に島田直孝様が選出されました。それでは、ここで、お二人からご挨拶をお願いします。

【中川会長】こんにちは。中川と申します。この名簿を見ますと、経験、見識等もすばらしい委員さんがおられる中で会長に選んでいただいて、非常に責任を感じているところです。また副会長に島田先生がおられますので力を借りてぜひ山鹿市のスポーツ振興の指針を作ればと思っております。委員の皆様のご意見、ご協力が必要かなと思っております。最後の推進計画が出来るまでご協力をいただければと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

【島田副会長】先ほど副会長に選任いただきました島田と申します。中川教授とは縁がありまして、現職のときから頻りに熊大へ行き、いろいろなお話をしたりと中川教授は非常に熊本県内のスポーツに関する全体の振興、スポーツ福祉の問題、生涯スポーツに関する事など非常に思い入れの深い方でございますので、そのあたりをしっかりサポートしながら、会長のサポート努めていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

5. 議事

(1) スポーツ推進計画策定趣旨説明（資料1）

⇒事務局から資料に基づき説明。

(2) 現状及び課題報告（資料2）

⇒事務局から資料に基づき説明。

【吉野委員】課題1で、運動する人や各施設利用頻度の低さとあるが、その原因は何とお考えか。

【事務局】後ほど、市民アンケート結果報告の部分で説明するところでしたが、昨年度、本スポーツ推進計画を策定するにあたり、事前に市民アンケートを実施しています。その中の質問の内容に、個人的には運動をしたいと思っておられるが、施設を利用すると、近くに施設がないなどといった理由により、思いはあるけれども施設を利用してまでの利用の頻度が少ない。ウォーキングであったり、身近に動けるようなスポーツについては、実施されている状況です。

【吉野委員】個人で、使用することがないということでしょうか。借りにくいとかそういうことではないでしょうか。

【事務局】借りにくいのも一つの要因になっているかもしれません。アンケート調査の回答の中に、利用の仕方がわからないというような回答もありましたので、今言われたとおり利用頻度の低さにも繋がっていると考えます。

【中川会長】これは私が思っている課題ですが、当然運動する意識は高いが、その中身の価値が低いと利用度が低いのではないかなと。東京オリンピックもそうですが、やめた方がいいという声があった時期から実際やっているわけですが、そういう面では、都民に私としては、スポーツの価値観を持っていない、と言い切ると怒られますが、やり始めるとスポーツの良さは分かっていると思います。基本はもっと価値観をつけないと、どうしても実施頻度にばかり注目が行って、そうではなく、それを支えるスポーツはいいものだという価値観をしっかりとつけていかないとなかなか増えていかないのではと思う。そういう意味でこの課題の中の一つには、実施頻度だけでなく、市民全体のスポーツに対する価値観の高揚向上を図っていくことも課題かなと思う。ぜひそこは考えていただきたい。

(3) 市民アンケート結果報告
⇒事務局より資料に基づき説明

【中原委員】ACP とは何ですか。

【事務局】ACP とはアクティブチャイルドプログラムといい、学校部活動で体を動かしていたものが社会体育に移行され、体を動かすことがなくなったり、小学校の統合により、スクールバスでの登下校で歩かなくなったりと体力の低下が懸念されていたので、少しでもお役に立てる取り組みということで、色々と検討した結果、国の施策の中にACPの推進とありますので、山鹿市も導入し進めているところです。

【戸沢委員】それに関しては、指導資格を持っていますが、内容としては、子供たちを遊ばせて、色々なゲーム的なもので体を動かす、それで体力づくりをする。簡単に言うと、子供たちを楽しませながらプログラムを作るそれがACP です。ですから小さい子に対しては小さい子向けのゲームとか遊びとか取り入れた運動です。

【事務局】学校単位とかで取り組む必要もあるかとも思いますが、例えば親子でとか、要するに遊びながら親子で体力づくりをしていくということも考えられますので、学校・地域単位とかではなくて小さな家族単位で広められたらいいなと考えています。

【中満委員】先ほど、施設を使用しにくいとありましたが、各施設の利用度は調査されていますか。

【事務局】施設の利用につきまして、社会体育施設を平成30年度に利用された方は45万人、令和元年度につきましては後半、新型コロナウイルスができましたので、36万9千人ということでもかなり落ち込んでいます。令和2年度につきましては閉鎖期間が長引いたことや、利用制限、山鹿市限定というような制限をかけたことにより21万9千人ということで、平成30年度と比べまして48.4%の利用率となって今現在も利用率がかなり低下しています。個々の施設の利用につきましても、1万人を切るような施設が10施設ほどありますので、それらも含めたところでの検討にも入らなければならないかと考えているところです。

【事務局】市民アンケートなので市民を対象に実施していますが、例えばカルチャースポーツセンターなどは非常に利用は多いのですが、どちらかというと市外からの大会に参加される方の利用が多いということで、全体の社会体育施設の利用の人数は上がったとしても、市民がどれだけ利用しているかということは把握できていないところがあります。

【中満委員】人数で言われましたが、旧町の体育館・学校開放施設を人数ではなくて、年間どれくらいの日数を利用されているかを実際お示ししていただければと思います。コロナの前の数字で構いません。

【高田委員】とても失礼な質問をさせていただきます。右も左もわかりませんのでアンケートにも書いてあります、やまが総合スポーツクラブとは具体的にどのようなことをされているのでしょうか。スポーツ少年団のような団体でされているのでしょうか。

【戸沢委員】15種目程度のスポーツプログラムがありますが、小さい子から高齢者が加入しており、すべてボランティアの指導者が週1～2回程度の活動を行っています。創立18年目を迎え、創立当初は各種イベントへ出向きPRを行っていた。年会費を払えばどの種目でも参加できるクラブであります。

【吉野委員】アンケートを基にスポーツ推進計画を策定するとのことですが、有効回収数が362人、その上60歳以上の方が44%程で、この結果をもとに作成していいのかなと思います。おそらく市民全体への推進計画だと思うので、もう少し足りていない年代への調査が必要ではないかと感じています。山鹿の人口からしても362件。このような調査をしたことがないのでどれくらいが有効なのかはわかりませんが、最初見たときにこれがどうなのかと思ったところです。

【事務局】アンケート調査の抽出については、年齢ごとに割合に応じた配分にしており、山鹿市は高齢化が進んでいるために高齢者への調査が多くなっていたというのが現状です。居住地域につきましても、山鹿エリア地域の人口が多く、そういった人口の配分で地域割りをし、均一に年代ごと、地域ごとに実施をしていませんので偏りがでています。ただ、先ほど担当が申しましたが、これを基にはではなく、これを参考にとという形で考えております。

【吉野委員】少ない中のご意見なので、これを基にはではなく参考にとということで理解しました。

【戸沢委員】利用料金の調査はどのような感覚で調査をされているのでしょうか？

【事務局】月々にお支払いできる金額を示しているところです。回数でとかではなく、月にお支払いできる金額として聞いております。

【中満委員】スポーツ情報についての選択肢にやまがメイトがない。やまがメイトは非常に有効的だと思いますが。

【事務局】質問の中に、市のホームページと SNS という項目を入れておりました。やまがメイトも含めたところで SNS ということにしていました。具体的にやまがメイトという表現をしておらず反映されていない部分があったと思います。また高齢者の回答が多かったというところからその部分での反映もあったと考えられます。

【中満委員】別の話になるかと思いますが、山鹿市全体として、やまがメイト普及をしていただき情報発信は積極的に行っていただきたいと思います。

【中川会長】アンケートの取り方という部分で、どこの市町村のアンケートもこのような形が多い。基本はこれが事業に結びつくような聞き方をしていかないと、これをそのまま事業に結びつけることができない。ある意味では情報はいろいろと出てはくるが、それを集めて作ったところが合わない人たちが出てくる。平均と同じ形となるので、前のアンケートは情報を得て、作成し、それをもう一度このような形でやりたいけど賛成かどうかという趣旨を聞いていかないと事業と結びつかないところがあるので、そういう意味ではこれはこれとして、これから先、推進計画を見直すときはもう少し工夫していただくと使える形になるかと思う。これが使えないというわけではないが。私も他市においてアンケートの作成をお願いして、私見を申すと、「それはちょっと・・・」と言われるが、それでも変えてデータとして取っていく。ただ情報として聞けないという部分もある。そのあたりを選択しながらぜひ事業に密着した形でアンケートが作られればと思う。それから1000名というのは、割と一般的かなと思います。それに答えている数が362人ということは、逆にいうとそれだけ関心がないということなのです。私から言うと、実施率が50%、60%という国のデータが出ておりますが、事業では絶対そういうことはない。その半分だ。答えているのが5割答えている場合にその半分になる。これだともう少し減る感じかなと。実施率、非常に山鹿の場合高いですが、答えていない人はおそらくやっていない人か関心のない人かなと思います。そのあたりを置き換えるともう少し下がってくるのではと考えられます。だから施設の利用と関係があるのかなと思います。

【戸沢委員】ACPの広報といった部分はどのようにされているか。実施校が3校なので。

【事務局】学校を含めたところでの、幼稚園保育園低年齢層への周知を今後は必要かなと思っています。活動が放課後の時間帯となり、スクールバスの関係上、その時間での活動ができなかったり、各学校において全校体育などといった取り組みを実施されている学校もあるため、実施校が3校になっています。

これまで、各校長先生にお諮りし、校長先生より希望を出された学校で実施しており、限られた3校でありましたが、今年は吉野委員の声掛けもあったことと思いますが、体育の先生方を対象にACPの講習会を計画しております。そのような体育教諭を通じたと

ころで山鹿市全体に広がり、小学校のみならず、就学前からの体力づくりということで、幼稚園との連携も図っていきたいと考えています。

【吉野委員】私たち小学校教諭が学ぶことでその動きを体育の授業や全校体育で取り入れればと思い講習を実施してもらうことになっています。

【中川会長】これは非常に良い取り組みだと思います。他の自治体でやっているところは少ないと思う。ただ ACP という響きがピンとこない部分があるので、もう少し日本語で分かりやすくしたほうがいいかなと思う。

(4) スポーツ推進計画策定スケジュール

⇒事務局より説明

【中川会長】これは決まっていることなので、私としては、理解を得たり、これを作成しないといけないので、具体的には3回の審議会ということですが、この場での意見を含めて、会の前後に意見をいただく機会を設けていただくとありがたい。時間も限られているので全部の意見を集約することもできないかなと思う。終わった後に、あの時言っとけばよかった、言えなかったなどあると思うので、そのフォローをしていただいて3回でということを進めていきます。これは、年間スケジュールであり、決定までどの市町村もこのような形になっていますのでよろしくお願いします。

【島田副会長】先ほどからいろいろな意見を聞く中で、スポーツ推進計画の成果づけとか基本理念あたりをきちっと考えていただいて、会長から出ましたとおり、具体的に事業として展開できるようなことを考えなければならない。そのために、調査も参考資料の一つとして、調査で済ませるのではなく状況を含めて考えなければならない。現在、東京オリンピックを見て感じるのが、クラブの時代が来たなとあらためて感じている。子どもが優勝するなど。とにかく我々は、体育的な部活動から、スポーツという感覚を持っていますが、先ほど会長が言われたとおり、スポーツの価値というのが多様化している。そのような動きの中から、先ほど総合型スポーツクラブの紹介もありましたが、そのほかにも小学校の社会体育以降に伴い、民意で行っているクラブもあると思います。そのような現状もしっかりと見据えて、具体的に市長の公約とかをしっかり受け止めて、そのようなものを体系化してきちんとした基本理念に基づいて計画をしていかなければならない。特に少子高齢化に伴い懸念するのが、子供たちの体力低下と高齢者。医療費の問題とかいろいろとありますが、全国の市町村をみますとスポーツでまちづくりときちんと定め、高齢者スポーツを積極的に推進しながら年間の医療費を下げたという市町村もあるわけでこれらを踏まえ総合的に申したところです。それから、パラスポーツとの関連はどうかと感ずるところがある。委員の中には入っておられないが、スポーツの多様化を見た場合、障がい者スポーツの捉え方も、別の団体

でやっておられる気はするが、その他の参考にしていただければと思います。

(5) 国、県、県内（市）体系図の説明

⇒事務局説明

【中川会長】内容に関してはだいたいこのような感じで、どこの市町村も同様であるが、もう少し言葉を変えて、どこにでもある言葉よりも山鹿らしい言葉、内容にしていければと思います。杓子定規にならず、より市民に分かりやすくお願いしたいと思う。

(6) 推進審議会委員意見交換（現状報告等）

【島田副会長】指導システム、指導者の体制、育成が非常にネックとなっている。体育協会にしても各競技団体の役員が減少傾向にある。高齢化に伴い次がない。大会をするにしても、運営するにしても難しくなっている。アンケート結果にもあったように、スポーツボランティアには興味がないとかあったので、支えるスポーツとして考えた場合、市民にスポーツに携わってもらうことが必要かなと思う。

昔は地域でのスポーツ行事も盛んであったが、現状は統合されるなどで廃れてきている。出る人は高齢者ばかり、運営する人もいない。このような現状を市民に少しでも活動しようとか思わせるような方向性を持たせることが大事になってくると思う。そのためには指導システムとか環境づくりというか、そういった部分は行政と各種団体が一環となってやっていかないと、どんな良い形のクラブ、システムを作っても、指導者は育っていかないとと思う。

山鹿市としても市民総参加型のスポーツ、他市においては、スポーツの日と設け、施設を開放して自由に利用できるようなこともやっている。オリンピックを契機に、少しでも家から一歩外に出て運動するように取り組まないとなかなかスポーツボランティアなども集まらない。そういった現況あたりも分析する必要もあるのかなと思う。

【戸沢委員】アンケートで時間がとれないとかいう人たちが見受けられますが、そういう人たちへの時間がとれない問題点を尋ねたところ、学校の送迎の問題等を挙げられた。他のところで子どもたちの送迎をスポーツの方へできないかなと言ったこともありました。子どもたちができる方法、時間が取れる方法を考えていかないと、子どもたちの活動ができないのではないかと考えている。各地域で違うとは思いますが、山間部、海部ならではのやり方で実施されているところもある。山鹿は山鹿でやり方を考えていかないと、時間がとれない、できないとかいう問題が解消できないのかなと思います。

【勝田委員】アンケートの中に、オムロンハンドボール部のことや、ハンドボールについての設問があり嬉しく思いました。ハンドボールの認知度は、それなりにあったよう

に思われますが、なかなか皆さんが体育館に足を運ぼうかというようなきっかけがあるかというところはまだだなどあらためて感じさせられました。このような議論を進めていくとどうしても手段になりがちかなと思っていて、何をやるかということよりも、何のためにやるかというところが大事なのかと思っています。それぞれいろいろな課題がある中で一つ一つを解決していこうというよりかは、スポーツを通じて複合性を持たせ、有効的に何かをやる。例えば、スポーツとエンタメ的な要素。それは、もちろんヘルスケアの分野もエンタメに入ってきたりするでしょうし、健康で豊かな生活を送るための何かのきっかけとして、利便性の良い街の中にみんなが集まれるアリーナがあって、そこでは日頃から何かイベントがされていて、市民のみなさんも自由に集まれて、というような融合ができたかどうかと思いながら話を伺っておりました。市民の身近なところにスポーツがあるという状態を目指す、それは自分たちの健康であったり、今後の生活を豊かにするためなどの目的があれば、時間がないからやらない、お金がかかるからやらない、という問題ではないような気がしています。検討を進める中で、一つ一つの課題を解決していくというよりかは、何かと何かを掻き合わせて一緒に解決できないかのような検討を進めれば、山鹿らしいものが出来上がるのではないかと考えています。その一つにぜひハンドボール活用していただきたいと思っているので今後もよろしくお願い致します。

【中満委員】子どもたちが学校統合によりスクールバス送迎となり、学校運営委員会の中でも、子供たちの体力低下というのが先生たちも危惧されている。そうした状況で部活動も全員していた中でこのように社会体育移行の流れになり、やっている子どもたちはやっているが、全くやっていない子どもたちの体力低下やスポーツ・運動に対する興味もなくなってきているのが現状だと思います。学校のスクールバスまでの間の40分程度、ボランティアで指導できないかと相談を受けたこともあったが、その時間帯というのが難しい時間帯。定年退職された方をどうにかしてお願いしていかないといけない。そのようなところも指導者の育成の部分としても考えていかないといけないと思います。それから、会長が言われた山鹿らしい文言をというところで、他市のひらがなのように、みんなが見てやさしい気持ちで見れるような、格式ばったことではなく、やわらしく、あっと気づいてもらえるような文言を考えてもらえればと思ったところです。

【中川会長】他市の計画に私も携わってきて、携わったものが言うのもどうかなと思いますが、計画を作った趣旨は、人が変わると施策も変わるということを何とか止めたいということで、人が変わっても策は変わらないための振興計画であり、その部分は成功したかなと感じている。ただその後、気になってきたことが、作った方がいいが動かない。絵にかいた餅で、あるのだけど実質動く人が変えていけない、だから現状と推進計画との間をどういう形でつなげば動いていくかというところが、今、私にとっては非常に課題になっていると思う。計画をつくることはある意味では終わった段階で、その次のステップはそれをどうやっていくか。その中に目標値はどこも作れるようになりました。

例えば実施率60%というのを掲げてやっていくという達成目標はできているが、それを動かす組織ができていないので、この計画の中に少しでも実施体制、先ほどの指導者の問題もそうですし、それだけではなくて経済的な問題もいっぱいあるし、もっと含めたところで、山鹿市をスポーツでいきいきさせ、活性化させられるような組織をどう位置づけるかということも、この計画の中の具体的な政策に入れてもらうと動く形になっていくかなと思っている。その一つがスポーツコミッションという考え方もありますが、山鹿の場合はオムロンさんもありますので、そういうものを活かしながら総合的にどう考えていけばということと、健康づくりは上がっているのですが、一人一人に届いていないと思っています。だから一人一人に簡単な指標、サポートケアとかというのもある、アンケート等で聞けるくらいの内容を含めてそこから積み上げていくものも必要かなと思う。ぜひ実際に動く、動かしていくところまでこの計画の中に入れていけば、他市と違った山鹿市らしいところにつながっていくと思いますので、ぜひお願いしたいなと感じます。

【事務局】本日は、いろいろとたくさんのご意見ありがとうございます。先ほど担当からの説明もありましたが、2回目の審議会におきましては、計画の理念、体系のご提案をするということで、これから事務局としましては、こし案の作成に取り掛かりますが、山鹿市独自の取り組みとして特に、スポーツ関係団体の統合を含めた組織の見直しが1点、市長の公約でもあります、スポーツを通じた経済振興についてが2点目、勝田委員からありましたが、ハンドボールの街やまがの推進、これにつきましては山鹿市独自の取り組みとしてしっかりと盛り込んでいきたい、ご提案申し上げたいと思います。その表現につきましては、いろいろとご指摘ありましたとおり、分かりやすい表現で皆様方に理解していただけるような形で、これから庁内関係部署ですとか関係団体との事前に協議を重ねながら、次回の2回目の審議会の中でご提案させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【中川会長】時間もきました。次回はこし案も出てくると思います。お願いになりますが、自分のところの専門はわかるかと思いますが、全体の推進計画、いろいろなところの情報を勉強していただいて、次回はその情報を持ってきていただいて、それでこし案を検討していただければありがたいと思います。期間がそれほどないので、そこをそれぞれの委員さんが持っていただいて、1回で作り上げるような気持ちで協力をいただければありがたいと思います。ぜひよろしくお願いします。

6. 閉会